

ルーマニア月報

2017年4月号



平成29年5月12日
在ルーマニア大使館作成

Embassy of Japan in Romania
<http://www.ro.emb-japan.go.jp>

本月報はルーマニアの報道をもとに、日本大使館がとりまとめたものです。

(AG:アジェルプレス通信, ZF:ズィアルル・フィナンチアル紙, NO:ナインオクロック紙)

主要ニュース

【内政】●ガブリエスク副首相兼環境相が就任した。

【外政】●クレム駐ルーマニア米国大使は、トランプ米大統領のルーマニア訪問の実現を目指すことを明らかにした。

●ティーマランス欧州委員会第一副委員長は、ルーマニアを訪問し、グリーンデアヌ首相等と協議を行った。

【経済】●2016年第4四半期のGDP成長率(推定値)は対前年同期比4.8%(季節調整前)、及び4.9%(季節調整後)、また対前期比では1.4%(季節調整前)。2016年のGDP成長率は4.8%(季節調整前)、4.8%(季節調整後)で据え置かれた。

●公共財務省は、3月末のルーマニアの財政収支は約15億2,350万レイ(約3億3,850万ユーロ)、対GDP比で0.19%の黒字であったと発表。

●欧州基金省は、2017年3月末の欧州基金(2007~2013年)執行率を90.44%と発表。

【我が国との関係】●コンスタンツァ市との姉妹都市締結40周年、ブラショフ市との交流25周年を記念して、横浜市及び武蔵野市からそれぞれ副市長、市議会議長を代表とする訪問団が訪れた。

内政

■ガヴリレスク新副首相の就任

・3日、大統領府において宣誓式が行われ、ガヴリレスク副首相兼環境相(ALDE(自由民主主義同盟。与党・中道右派)。前議会関係相)が就任した。また、同副首相の後任の議会関係相には、同じくALDEからイリエ上院議員(前同党上院院内総務)が就任した。

■その他の政界に関する動き

【民族主義政党連携】

・2日、ルーマニアの3つの民族主義政党、PRU(統一ルーマニア党)、PRM(大ルーマニア党)及びPND(新右派党)は、政治同盟「欧州における国家アイデンティティ」を設立したと発表した。

【ALDE内の動き：タリチャーヌALDE党首の選出等】

・21~22日にかけて、ALDE党大会が開催され、22日に行われた党首選出候補において、タリチャーヌ前共同党首(上院議長)が、単独の党首に選出された。これまで同党はタリチャーヌ上院議長とコンスタンティン前副首相による共同党首体制を採っていた。

同時に行われた副党首選出候補では、ガヴリレスク副首相兼環境相、ペトク・エネルギー相及びメレシユカーヌ外相を含む16名の副党首が選出された。

・27日、ALDEは執行政治局会合を開催し、コンスタンティン前共同党首(前副首相兼環境相)の等からの除名を同党の常設代表者会合に諮ることを決定した。

【ドラグネアPSD党首に関する司法判断】

・24日、破棄院（日本の最高裁に相当）は、2012年に行われたバセスク前大統領罷免の是非を問う国民投票における職権濫用罪によって禁固2年（執行猶予付）の判決が確定していたドラグネアPSD（社会民主党。与党・中道左派）党首（下院議長）による特別上告（手続きの不備を理由とするもの）を却下する判断を下した。

これに対し、ドラグネア党首は、本件を欧州人権裁判所及び欧州司法裁判所に提訴する可能性について言及するなどして本判断に対する不満を表明した。

・27日、憲法裁判所は、チョルベア・オンブスマンから提起されていた、有罪判決を受けた者の閣僚就任を禁止する法律の合憲性判断を延期する旨発表した。憲法裁判所による判断延期の発表はこれで5度目。同法律の存在により、ドラグネア党首は首相に就任することができない（同首相自身は、首相就任への意欲を否定している）。

【内閣改造の噂】

・24日、民放TV局の番組に出演したグリーンデアヌ首相は、すべての閣僚の活動についてはしっかり監督していると述べた上で、内閣改造は報道上で行われるものではない旨述べ、ただちの内閣改造を否定した。内閣改造については、ドラグネアPSD党首が複数の閣僚の活動に満足していないと述べた（23日）ことなどもあり、多くの報道でその可能性が取り沙汰されていた。

外政

■主な要人往来

・3日、メレシュカーヌ外相は、ルクセンブルクで開催されたEU外務理事会に出席した。

・4-5日、ビルチャル欧州問題担当相は、フランスを訪問し、デジール仏欧州問題担当長官、ビゼ上院議員（上院欧州問題委員長）等と会談を行った。

・5日、ランメルト独連邦議会議長はルーマニアを訪問し、ヨハニス大統領と会談を行った。

・6-7日、メレシュカーヌ外相は、スロバキアを訪

問し、キスカ大統領及びライチャーク外相と会談を行った。

・9日、メレシュカーヌ外相は、エストニアを訪問し、ラタス首相、ミクセル外相等と会談を行った。

・12日、メレシュカーヌ外相は、ワルシャワで開かれたV4及び東方パートナーシップ諸国会合に出席した。

・19-20日、ビルチャル欧州問題担当相は、オーストリアを訪問し、クルツ・オーストリア外相、リンハルト外務次官等と会談した。

・20日、ティーマーマンス欧州委員会第一副委員長はブカレストを訪問し、グリーンデアヌ首相及びトアデル法務相と会談を行った。

・26日、ルーマニアを訪れたクヴィリカシヴィリ・ジョージア首相は、ヨハニス大統領及びグリーンデアヌ首相と個別に会談を行った。

・27日、ビルチャル欧州問題担当相は、ブリュッセルで開かれた27ヶ国の形態で初めてとなるEU総務理事会に出席した。

・28日、メレシュカーヌ外相は、マルタで開催されたEU非公式外相会合に出席した。

・29日、ヨハニス大統領はブリュッセルで開催された特別欧州理事会に出席した。

■EU関係

・19日、ビルチャル欧州問題担当相は、クルツ外相との会談において、2019年1月のオーストリアからルーマニアへのEU議長国の引き継ぎに向けた定期的対話と協力の緊密化の重要性を強調した。

・20日、ティーマーマンス欧州委副委員長は、協力・検証メカニズム（CVM）とEU議長国就任には関連はなく、CVMの下で司法改革を継続しながら、EU議長国に就任することは可能であるとの見解を示した。グリーンデアヌ首相は、議長国就任前のCVM解除を目指す述べた。

■英国関係

・3日、メレシュカーヌ外相は、ルクセンブルクでの外務理事会のマージンで、ジョンソン英外相と会談を

行い、ルーマニア－英国の戦略的パートナーシップ等について協議した。ジョンソン外相は、英国のルーマニア人コミュニティの英国社会への貢献に感謝すると共に、ルーマニア市民の権利保護を約束した。

・18日、ビルチャル欧州問題担当相は、英国のEU離脱等の影響を評価・分析するための省庁間の作業部会の発足式に出席した。

■米国関係

・5日、クレム駐ルーマニア米国大使は、トランプ米大統領のルーマニア訪問の実現を目指していることを明らかにし、ルーマニア側がトランプ大統領の訪問を公式に招請したと述べた。4日の時点で、グリーンデアヌ首相は、米大統領訪問の情報について、肯定も否定もしていない。

■北朝鮮関係

・5日、ルーマニア外務省は、北朝鮮による弾道ミサイル発射実験を非難するプレスリリースを発出した。

■シリア関係

・7日、ルーマニア外務省は、シリアにおける化学兵器使用を非難し、米国による軍事攻撃を擁護する内容のプレスリリースを発出した。

■トルコ関係

・20－21日、チャンバ外務次官はアンカラを訪問し、ユルドゥズ外務副大臣等と協議を行った。チャンバ次官は、地域の安全保障にとって、トルコがルーマニアの主要パートナーであることを強調すると共に、EU域外での最大の貿易相手国として、更なる経済関係の強化への期待を表明した。

チャンバ次官は、16日にトルコで行われた憲法改正の是非を問う国民投票の暫定結果に関連して、自国の憲法に対するトルコ国民の権利が尊重されることを期待すると共に、国民投票の結果が、すべての政治勢力のコンセンサスを通じて実現されることを望むと述べた。

■ジョージア関係

・26日、グリーンデアヌ首相は、ルーマニアを訪問したクヴィリカシヴィリ・ジョージア首相と会談し、二国間及び黒海地域における貿易・経済・エネルギー等の分野での協力の重要性を確認した。

ジョージアのEU・NATO加盟プロセスについても議論し、グリーンデアヌ首相は、ジョージアへの支持を明確にすると共に、ジョージアのEU・シェンゲン圏との査証自由化について祝辞を述べた。

■軍事・安全保障関係

・4日、レシュ国防相及びチューカ統合参謀長は、ルーマニアを訪れたテラス・エストニア国防軍司令官と会談し、NATOの枠組み内及び二国間における軍事協力強化の方法について意見交換した。

・7日付当地報道は、ルーマニア及びブルガリアが、ロシアからセルビアに提供されるMI G－29戦闘機の領空通過の禁止を決定したと報じた。

・20日、ヴラディカ国防次官は、記者会見において、ルーマニアは米国からパトリオット・ミサイルを調達する計画を有しており、米国政府に要請済みであることを発表した。

■経済

■マクロ経済

(特に記載のない限り、対前年比又は前年同期比、季節調整後、出典は国家統計局INS)

【2月分統計】

(1) 鉱工業

	1月	2月
工業生産高	5.5%	5.5%
工業売上高(名目)	9.1%	7.5%
工業製品物価指数	2.6%	3.9%
新規工業受注高(名目)	7.8%	9.8%

工業売上高(名目)が若干減速。新規工業受注高(名目)が加速。

(2) 販売

	1月	2月
小売業売上高 (自動車・バイクを除く)	6.2%	7.8%
自動車・バイク売上高	11.2%	15.6%
小売業売上高 (ユーロスタット)	ユーロ圏 1.2%	ユーロ圏 1.8%
	EU28か国 1.5%	EU28か国 2.2%

小売業売上高(自動車・バイクを除く)及び自動車・バイク売上高が若干加速。自動車・バイク売上高が加速。

なお、2月の小売業売上高(ユーロスタット)対前年同月比では、スロベニア(+16.8%)が最も増加し、次いでルクセンブルク(+12.9%)及びリトアニア(+7.6%)。

(3) その他

建設工事	1月	2月
	▲6.6%	▲9.1%

建設工事が減速。

(4) 輸出入

	1月	2月
輸出	€46億7,830万 (13.6%)	€50億7,160万 (5.4%)
	RON210億7,970万 (13.0%)	RON228億6,600万 (5.7%)
輸入	€52億8,570万 (17.5%)	€57億2,320万 (5.5%)
	RON238億1,810万 (16.9%)	RON258億540万 (5.9%)

【1月～2月分統計】

(1) 鉱工業

	1月	2月
工業生産高	5.5%	5.6%
工業売上高(名目)	9.1%	8.7%
新規工業受注高(名目)	7.8%	9.2%

(2) 販売

	1月	2月
小売業売上高 (自動車・バイクを除く)	6.2%	7.1%
自動車・バイク売上高	11.2%	14.2%

自動車・バイク売上高が加速。

(3) その他

建設工事	1月	2月
	▲6.6%	▲7.6%

(4) 輸出入

	1月	2月
輸出	€46億7,830万 (13.6%)	€97億4,990万 (9.2%)
	RON210億7,970万 (13.0%)	RON439億4,570万 (9.1%)
輸入	€52億8,570万 (17.5%)	€110億890万 (10.9%)
	RON238億1,810万 (16.9%)	RON496億2,350万 (10.9%)
貿易収支	▲€6億740万 (▲€2億2,770万)	▲€12億5,900万 (▲€2億6,750万)
	▲RON27億3,840万 (▲RON10億1,970万)	▲RON56億7,780万 (▲RON12億1,930万)

【3月分統計】

・消費者物価指数

	2月	3月
全体	0.20%	0.18%
食料品価格	1.43%	1.67%
非食料品価格	▲0.11%	▲0.25%
サービス価格	▲1.71%	▲1.39%
消費者物価指数 (ユーロスタット)	ユーロ圏 2.0%	ユーロ圏 1.5%
	EU28か国 2.0%	EU28か国 1.6%

なお、3月の消費者物価指数（ユーロスタット）対前年同月比では、ルーマニア（0.4%）、アイルランド及びネーデルランド（同0.6%）が最も低く。

【その他統計】

・7日、INSはルーマニアの2016年第4四半期のGDP成長率（推定値）は対前年同期比4.8%（季節調整前）、及び4.9%（季節調整後）、また対前期比では1.4%（季節調整前）とそれぞれ据え置いた。2016年のGDP成長率は4.8%（季節調整前）、4.8%（季節調整後）で据え置かれた。（INS）

■産業界の動向

・1日、フランス自動車製造者委員会（CCFA）によると、3月におけるフランスでのダチア新規登録台数は12,167台になり、対前年同月比で9.5%増加した。フランスの自動車市場全体は7.0%増加した。1月～3月にかけては、ダチア新規登録台数は30,152台になり、対前年同期比で5.4%増加した。1～3月にかけては、フランスの自動車市場全体は4.8%増加した。（CCFA）

・13日、ルーマニア運転免許証・自動車登録局（DRPCIV）によると、1月～3月の新車登録台数が22,276台に達し、対前年同期比で約27.50%増加した。（13日付AG）

・13日、ルーマニア運転免許証・自動車登録局（DRPCIV）によると、1月～3月にかけて、中古車登録台数が12万8,123台に達し、対前年同期比で98.06%増加した。（13日付AG）

・19日、欧州自動車工業会（ACEA）によると、3月におけるヨーロッパでのダチア自動車新規登録台数は4万3,507台となり、対前年同月比で+8.4%増加した。1～3月にかけては、ダチア自動車新規登録台数は9万9,675台となり、対前年同月比で+9.4%増加した（ACEA）

・28日、ルーマニア自動車生産者輸入業者協会（APIA）によると、1～3月の車両販売台数は29,930台で、対前年同月比で16.2%増加した。2017年1～3月のメーカー別自動車販売は1位がダチア

（6,051台、市場シェア：25.8%、対前年同期比で9.7%増加）で、次いでVolkswagen（2,846台、市場シェア：12.1%、対前年同期比で26.8%増加）、Skoda（2,178台、市場シェア：9.3%、対前年同期比で3.9%増加）、Ford（1,744台、市場シェア：7.4%、対前年同期比で31.4%増加）、Renault（1,673台、市場シェア：7.1%、対前年同期比で36.4%増加）、Opel（1,073台、市場シェア：4.6%、対前年同期比で54.4%増加）。（APIA）

■公共政策

・欧州基金省は、2017年3月末の欧州基金執行率（2007～2013年）を90.44%と発表。2月末から不変。（31日付欧州基金省）

■財政政策

・25日、公共財務省は、3月末のルーマニアの財政収支は約15億2,350万レイ（約3億3,850万ユーロ）、対GDP比で0.19%の黒字であったと発表。2月末の財政収支は約3億9,710万レイ（約8,824万ユーロ）、対GDP比で0.05%の黒字であった。（公共財務省）

■金融等

・3日、3月末の外貨準備高は346億9,500万ユーロ（2月末の344億9,500万ユーロから増加）、金準備高は103.7トンで不変。（BNR）

・5日、ルーマニア中央銀行は、政策金利を年率1.75%で据え置くことを決定した。（BNR）

・13日、2月末の経常収支等について次のとおり発表。

(1) 経常収支は2億400万ユーロの黒字。なお、前年同期には3億3,700万ユーロの赤字であった。

(2) 外国直接投資（FDI）は、6億5,500万ユーロ。なお前年同期は3億5,400万ユーロ。

(3) 中長期対外債務は、2016年末から0.7%減少し、684億9,500万ユーロ（対外債務全体の73.9%）。

(4) 短期対外債務は、2016年末から3.7%増加して、242億5,800万ユーロ（対外債務全体の26.1%）。（BNR）

■労働・年金問題等

・3日、ILO基準による2月末の失業率は1月末から不変で、5.4%であった。（INS）

・7日、2月の平均給与（グロス）は、3,108レイ（約691ユーロ）で、対前月比で1.9%減少。平均給与（手取り）は2,236レイ（約497ユーロ）で、対前月比で64レイ（2.8%）減少。なお、平均給与（手取り）が最も高かった業種は、IT&C分野で（5,631レイ、約1,251ユーロ）で、反対に最も低かったのは宿泊・飲食業（1,351レイ、約300ユーロ）。（INS）

・14日、国家雇用庁（ANOFM）は、2月末の失業率を、1月末の失業率から0.09%ポイント減少し、また、2016年2月末の失業率から0.16%ポイント低下して、4.71%となったと発表。（ANOFM）

■格付（2017年5月12日付）

Fitch	外貨建長期(国債)	BBB-	(安定的)
	自国通貨建長期	BBB	(安定的)
S&P	外貨建長期	BBB-	(安定的)
	自国通貨建長期	BBB-	(安定的)
JCR	外貨建長期	BBB	(安定的)
	自国通貨建長期	BBB+	(安定的)
			(内はアウトルック)

■我が国との関係

・3月31日～4月4日にかけて、ネゴイツァ・ブカレスト第三区長率いるルーマニア市長協会一行13名が訪日した。一行は、滞在中、川澄東京都副知事、武井東京都港区長、邑上武蔵野市長、林横浜市長、渡邊外務省地方連携室長と会談するなどした。同訪日には、ネゴイツァ区長のほか、アルバユリア、ビストリツ

ァ、ブザウ、カララシ、コンスタンツァ、デヴァ、フォクシャニ、ペトロシャニ、ブカレスト第一区（市に相当）、サトゥマーレ、スロボズィア、ルムニクヴルチャの市長が参加した。

・19～23日、横浜市とコンスタンツァ県の姉妹都市締結40周年を記念して、加藤横浜市議会副議長、柏崎横浜市副市長、横浜コンスタンツァ友好委員会等42名の訪問団がコンスタンツァ市を訪問し、ファガダウ・コンスタンツァ市長と会談したほか、一連の歓迎行事や文化行事に参加した。

・20～24日、武蔵野市とブラショフ市の交流25周年を記念して、五十嵐武蔵野市副市長及び達川武蔵野市議会議長がブラショフを訪問し、ブラショフ市及びブラショフ県関係者と会談したほか、記念行事に参加した。

・26日、ルーマニア・日本友好議員連盟が正式に発足し、ポップ下院議員（PSD（社会民主党。与党・中道左派）副党首）が会長に就任した。副会長はイリエ議会関係相（ALDE上院議員）、書記はサフトイウ下院議員（PNL（国民自由党。野党・中道右派）副党首。元大統領補佐官）。